

決勝【大将】高村(三井住友海上・本店)②—岩川(富士ゼロックス・本社)

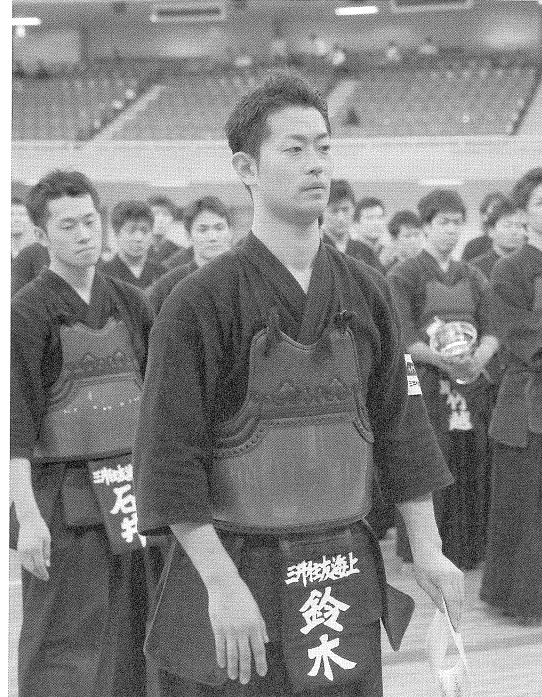
同点同本数で迎えた大将戦は高村(33歳)と岩川(26歳)の早稲田大学出身者対決。準決勝の快勝ぶりからは岩川に勢いがあるかと思われたが、高村は開始からグイグイと攻める。瞬発力に長ける高村は岩川のひきどりに瞬時に反応。間容れずにメンに跳ぶと、これが連覇を決める一打となった(写真)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
三井住友海上(本店)		山田	石井	鈴木	井口	高村	2
		田	井	木	口	村	2
富士ゼロックス(本社)		東郷	北川	岡北	上原	岩川	1
		郷	川	北	原	川	1



優勝◆三井住友海上(本店)

山田健太郎(25歳)
石井将勝(27歳)
鈴木悠平(27歳)
井口亮(28歳)
高村泰央(33歳)
監督=宮本貴之



最優秀選手◆鈴木悠平(三井住友海上本店・五段)

第57回関東実業団剣道大会

一般の部

三井住友海上(本店) 連覇!

平成27年6月7日(日)
日本武道館
主催=関東実業団剣道連盟
撮影=池田摩梨子、樽川智亜希

「女子の部」との二部門同時開催となつて今回が三年目となる。毎年数多くのチームが参戦するこの「一般の部」だが、近年は参加企業も増加の傾向にある。今年もまた昨年より8チーム多い226チームのエントリーがあった。

4月に新入社員が入社した企業が数多いということもあり、毎年この関東大会は新戦力のお披露目的な場ともなっている。高校、大学で活躍した選手、あるいはそうでない選手もしっかり、今回が実業団デビューとなるフレッシュな若手たちが各試合場で躍動した。

57回を迎える大会の決勝戦へとコマを進めたのは、昨年の覇者である三井住友海上(本店)と富士ゼロックス(本社)。それぞれ過去の優勝回数は、三井住友海上が10回、富士ゼロックスが6回を誇る強豪同士。もちろん優勝をかけて決勝を争った経験もあり、実業団剣道界を代表するライバル同士でもある。

先鋒から大将まで、前回大会とまったく同じ布陣で戦いに臨んできた三井住友海上。緒戦となる2回戦、日本通運(東

京支店)との戦いではいきなり代表戦へともつれ込む接戦となったが、ここは大将・高村が代表戦を勝利して何とか持ちこたえた。

以降も楽な戦いはなく、準決勝では伊田テクノス(伊奈)に再び代表戦へと勝負を持ち込まれるも、今度は中堅・鈴木がこの局面を制して決勝へ。同社にとつてはこれが5年連続の決勝進出となった。

一方の富士ゼロックスは、三井住友海上とは対照的に若手を登用。先鋒、次鋒には東郷、北川という法政大学出身の新人を配置。そして大黒柱の大将には、先鋒としての活躍も記憶に新しい25歳・岩川を起用した。前衛と後衛を若手で固めるチーム編成で、決勝戦までコマを進めてきた。

決勝戦、ここまで自陣の期待どおりの活躍を見せてきた富士ゼロックス・東郷がこの一番でも力を発揮。長身の山田に対して臆せず攻めて、時間終了間際に貴重な一本を奪う。

先制を許して苦しい状況に追い込まれた三井住友海上だったが、この日ともに代表戦を経験している鈴木、高村は、こういった窮地で真価を発揮する選手。

鈴木が落ち着いた戦いぶりでも点同本数のスコアに迫りつければ、大将戦では高村が一瞬の好機を逃さぬメン一本で逆転勝利。連覇達成にして11回目の優勝をその手中に収めた。

三井住友海上・宮本貴之監督は「挑戦者の気持ちで臨みました。当社剣道部の



6回戦

東京海上日動 (本店) 2—0 富士ゼロックス東京(本社)
【中堅】谷際 ⊗ コー 新海

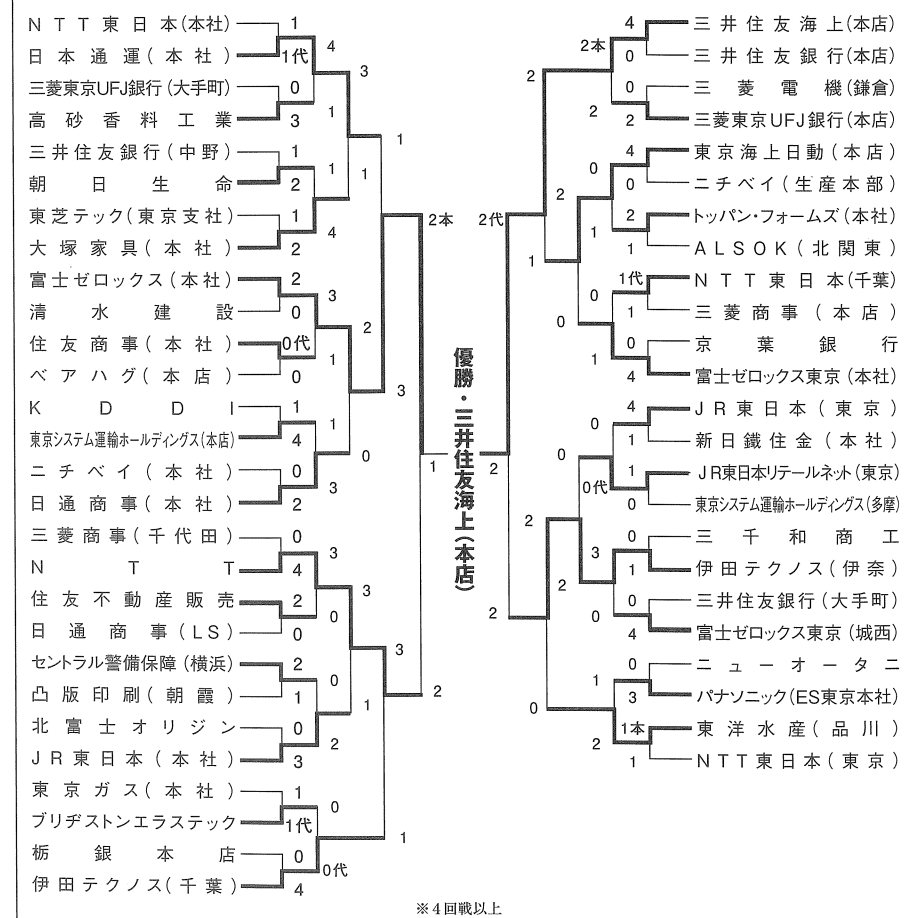
▲先鋒、次鋒と引き分けに終わる緊張感漂う展開だったが、中堅戦で試合が大きく動いた。上段の新海に対して谷際がメン(写真)、コテを連取。チームに大きなリードをもたらした



5回戦

伊田テクノス(千葉) 0代—0 ブリヂストンエラストック
【代表】内田 コー 松井

▲両チームの実力は拮抗、先鋒から大将までが引き分けに終わり、勝敗は代表戦による決着となった。ブリヂストンからは中堅の松井が、伊田テクノスからは大将の内田が臨んだ代表戦は、内田がコテで勝敗を決めた(写真)



準々決勝

【先鋒】東郷(富士ゼロックス・本社) ㊦メー 高橋(日本通運・本社)

◀新戦力の東郷が力を見せた。初打力、勢いよくコテに切り込めば、これが見事な一本となる(写真)。二本目になると今度はひきメンを追加。大きな先制点を挙げてチームを牽引した

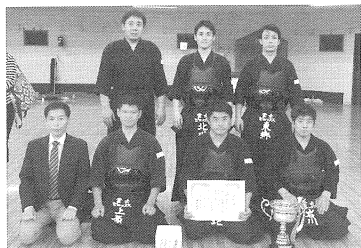
チーム	期	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス(本社)	国	東郷	北川	岡北	上原	岩川	3
		国	国	国	国	国	5
		国	国	国	国	国	2
日本通運(本社)	国	高橋	谷口	中石	柴田	志賀	1
		国	国	国	国	国	1
		国	国	国	国	国	1



準々決勝

【先鋒】柴崎(伊田テクノス・伊奈) ⊗ — 笹山(東洋水産・品川)

チーム	組	先	次	中	副	大	得点
伊田テクス (伊奈)	柴崎	中	伊藤	吉村	田口		2
		②	③	×	×	②	3
東洋水産 (品川)	笹山	小倉野	前村	飯島	大書		0



2位◆富士ゼロックス(本社)

東郷知大(22歳)、北川清太(22歳)、岡北真輔(36歳)、
上原祐二(34歳)、岩川力(26歳)、住崎誠洋(35歳)。
監督=三木勤



3位◆伊田テクノス(伊奈)

柴崎龍太郎(23歳)、中山晃一(24歳)、
伊藤優樹(25歳)、吉村翔(26歳)、田口大輔(34歳)、
坂田淳(23歳)。監督＝榎崎亘



3位◆NTT

齊藤将吾(25歳)、田門深(28歳)、竹越充(28歳)、
榎本雄斗(23歳)、下村和宏(30歳)、松隈庸太(29歳)
監督=谷裕二



準決勝【代表】鈴木(三井住友海上・本店)×— 田口(伊田テクノス・伊奈)

▲大将戦、田口が勝って勝負を代表戦へ持ち込んだ。伊田テクノスからは田中、三井住友海上からは中堅の鈴木が立った代表戦。終始冷静さを失わなかった鈴木が田口の一瞬のスキを突いてひきメンを打ち込んだ(写真)	順	先	次	中	副	大	得点	代
三井住友海上(本店)	山田 ②	石井 ②	鈴木 木	井口	高村	2	鈴木 メ	
伊田テクノス(伊奈)	柴崎 中	山藤 吉	田口 田	2	田口			



準決勝【大将】岩川(富士ゼロックス・本社) ⊕メー 下村(NTT)

▲副将戦の接戦を制してNTTがリードを奪う。二本奪えば逆転できる岩川、強豪・下村相手に厳しい条件かと思われたが、ここで力を発揮した。まっすぐなメンで先制すると、続けざまにひきメンを追加(写真)。大逆転で富士ゼロックスが決勝へとコマを進めた

ゲーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス(本社)	東郷	北	岡	上	岩	2	
		川	北	原	川	5	
		×	◎	メ	×	4	
NTT	齋藤	田	竹	榎	下	2	
		門	越	木	村		



準々決勝 【大将】下村(NTT) ㊴メー 内田(伊田テクノス・千葉)

▲ 先鋒、中堅の勝利で王手をかけたNTTだが、伊田テクノスも副将戦を勝って食いが着く。大將戦、開始から内田が攻めかかるが、下村は技の打ち終わりをコテにとらえる(写真)。続けざま、まっすぐなメンを追加した	チーム	順	先	次	中	副	大	得点
	NTT		齊藤	田門	竹越	榎村	下村	3
			藤	越	メ	村	5	
							2	
伊田テクノス (千葉)			栄花 友友	近藤	工藤	栄花 元田	内田	1

準々決勝 [次鋒]石井(三井住友海上・本店) ⊕ — 鴨下(東京海上日動・本社)

チーム	先	次	中	副	大	得点
三井住友海上 (本店)	山田	石井	鈴木	井口	高村	2
		◎	◎	×	×	2
	◎					1
東京海上日動 (本店)	安川	鴨下	谷際	細貝	宮原	1

▼先鋒戦を奪った東京海上日動。連勝を飾りたいところだったが、これを石井がストップ。勢い良くメンに跳び込んでタレに持ち込んだ(写真)。石井の奮闘に応えて鈴木が連勝を飾る



植村裕之最高顧問が関東実業団連盟会長に就任したこのタイミングでの連覇は本当にうれしい」と喜びを語った。

今大会は序盤戦で波乱が多かった。前回大会では2位、全日本大会では優勝を果たしている東洋水産(本社)は3回戦で大將戦の末に敗退。過去3回の優勝経験のある伊田テクノス(本社)も緒戦の2回戦で代表戦で敗れた。両チームの敗北は勝負の難しさを改めて感じさせたがそれぞれの企業のB、Cチームが今回は奮闘。伊田テクノス(伊奈)の3位入賞、東洋水産(品川)のベスト8進出と、Aチームは散れども、その層の厚さはしっかりと見せつけた。